

# 学校における働き方改革推進について（共有資料 part1）

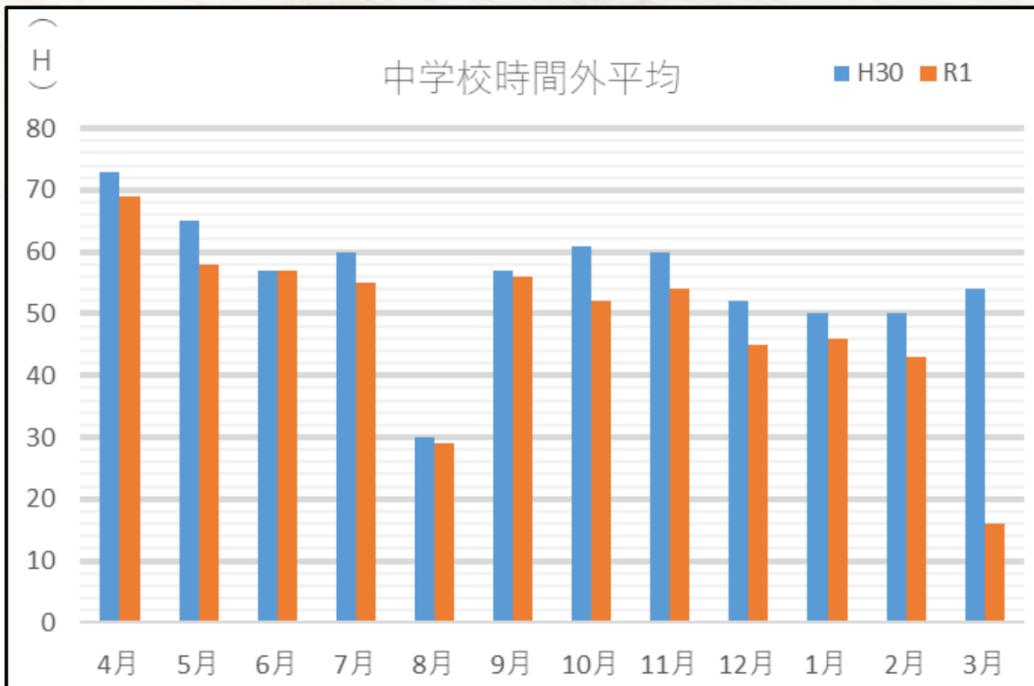
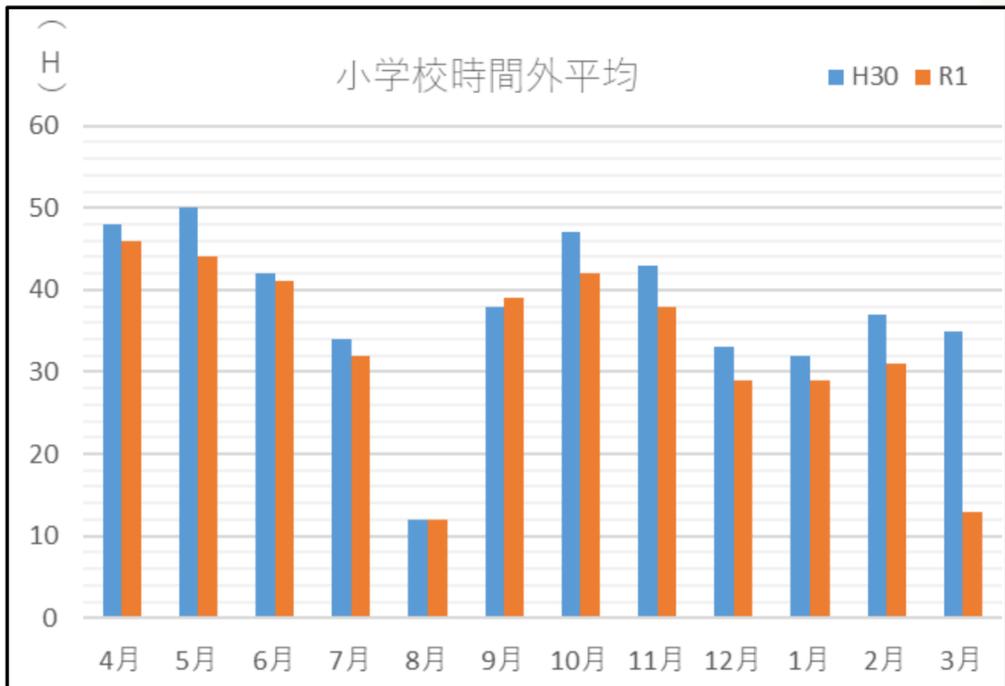
1. 枚方市立小・中学校の勤務実態 (P1)
2. 働き方改革の目的・取組 (P2)
3. 令和元年度モデル校・準モデル校による取組より (P3)
4. 令和2年度業務改善推進校の目標 (P4~P16)

令和2年5月

学校教育部 教職員課



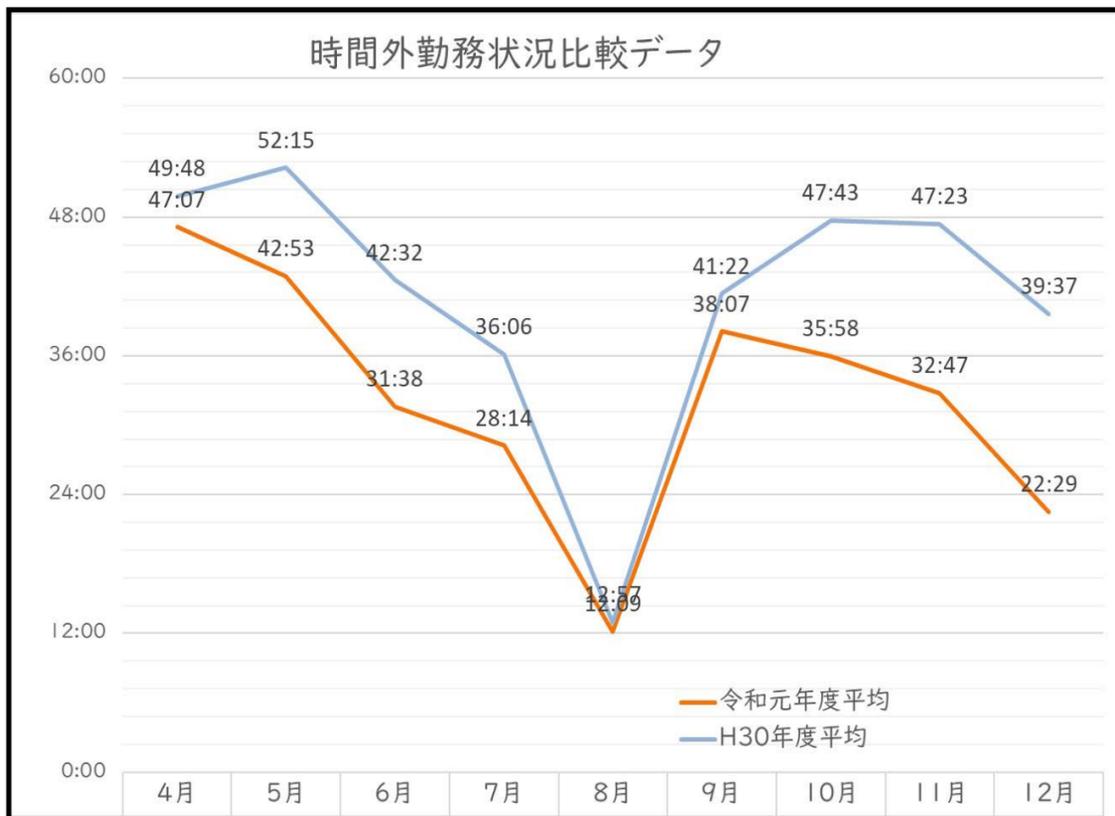
# 枚方市立小・中学校教職員の 時間外勤務時間



個別データでは、 時間外勤務時間が月当たり	(H30)	(R1)
100h以上	4.4%	3.2%
80h以上100h未満	11.3%	8.4%
60h以上80h未満	26.2%	21.2%
45h以上60h未満	43.5%	36.7%
45h未満	14.6%	30.5%

## 平成29年度～令和元年度 業務改善加速事業モデル校(樟葉北小学校)の実績!!

秋葉教頭先生に  
聞きました!



樟葉北小学校では、教職員全員が、「実感できる業務改善」を意識して取り組んできました。

「実感」は、個人の感覚が違うことを共有することで意識改革を進めることができました。

ポイントは…

「業務の合理化を図る。」

「業務の質を上げる。」

「業務の総量を減らす。」

教職員一人ひとりが、目標を意識して業務の効率化を目指すことで、同僚性を育むことができ、結果として、学校の業務量を減らすとともに、業務時間が減少することになりました。

★樟葉北小では、ストレスチェック分析において、「仕事や生活の満足度」UP! 「働きがい」UP! 「心理的な負担感」DOWN! という結果が出ています。

# 学校における働き方改革の目的

～教職員が元気な学校は、子どもたちも元気な学校～

これまでの働き方を見直し、教職員一人ひとりの心身の健康保持の実現と、誇りややりがいをもって勤務することで、子どもたちに対して、効果的で充実した教育活動おこなうことをめざす。

## 意識改革

- ・「時間を意識した働き方」へ。限られた時間を最大限に有効活用し、効果的で充実した教育の実現をめざす。
- ・働き方改革研修の実施。
- ・業務改善推進校の取組好事例の発信。
- ・専門コンサルタントによる研修・助言。
- ・原則スクラップ&ビルド。

## 学校指導体制の整備

- ・部活動ガイドラインの遵守徹底。
- ・研修内容、実施方法の精査による効果的、効率的な研修の実施。
- ・市教委による学校訪問体制の再構築。

## 事務業務の軽減

- ・業務アシスタント活用（推進校10校）。
- ・自動採点システム活用（中学校3校）
- ・校務支援システム活用

## 時間管理の徹底

- ・出退勤システムを活用した在校時間の適切な把握。
- ・学校⇄家庭の電話対応時間の設定。
- ・市教委⇄学校の電話対応時間の設定。
- ・学校閉庁日の設定。
- ・定時退庁日の徹底。

## 教職員のメンタルヘルス対策推進

- ・働きやすい職場環境づくりの徹底。
- ・ストレスチェックを年2回実施。
- ・1月あたり時間外勤務100h以上又は2～6月平均80h以上の教員全てについて、産業医による面接指導を行い教員の健康管理を徹底。

# 令和元年度モデル校・準モデル校による 取組より

楠葉中・樟葉北小・樟葉小  
蹉跎小・交北小・田口山小・菅原東小・伊加賀小・  
東香里中・蹉跎中

## 児童にも先生にも優しい学校づくり

ストレスチェック

- ・「仕事や生活の満足度」UP!
- ・「働きがい」UP!
- ・「心理的な負担感」DOWN!

- ・教室環境・給食手順のUD化
- ・学年だより様式統一
- ・教育計画の年内作成
- ・児童印作業の廃止
- ・職員会議ペーパーレス化
- ・丸付け作業の改善

## 校内業務改善研修を実施 (首席が担当)し、来年度学校 として取り組むことを明確化。

(一例)

- 5,6年生の一部教科担任制を実施。
- ・学年の全ての児童の把握が可能。
- ・チームでの生活指導が充実。
- ・担当教科の教材研究を深く。

## 職員アンケートから、業務改善

- ・図工展を年間作品展へ。
- ・1時間目開始を8:45に変更。
- ・職員朝礼を電子化。集まるのは週1回に。=児童との時間に。
- ・他校の取組の影響で、年度末反省を年間反省に変更。
- ・職員会議資料のデータ化・ペーパーレス化。
- ・部会の参加者の精選。

## In a short time!を意識

- ・学校教育自己診断  
「業務改善を意識した働き方」UP!  
「校務分掌等適切な配置」UP!
- ・組織改編(部会の整理・統合)
- ・電話対応時間(月~金8:00~18:00)
- ・業務アシスタント活用。
- ・出退勤データ管理  
時間外勤務時間 年間平均35.6h

## 生徒に向き合う時間の確保

- ・事務作業削減 満足度約8割!  
業務アシスタント活用(月~金 9時~12時)
- ・負担感削減・教材研究に専念  
満足度約9割!  
電話対応時間(月~金8:00~18:00)
- ・業務削減 満足度約7割!  
自動採点システム

## アシスタント活用から見た、 計画的な業務遂行の大切さ

- ・業務依頼を意識することで、自分の仕事と依頼する仕事を分別。
- ・自分の仕事を精選することで、見通しをもった業務意識の確立へ。
- ・自分にしかできない仕事を優先し、それ以外は依頼できる仕事とする。

# 令和2年度 業務改善推進校の目標



1. 樟葉小学校
2. 交北小学校
3. 菅原東小学校
4. 伊加賀小学校
5. 東香里中学校
6. 蹉跎中学校
7. 開成小学校
8. 五常小学校
9. 蹉跎東小学校
10. 長尾西中学校

※各校の資料は、推進校応募の際に提出されたものです。

…しかし、職員も人間。長時間働き続けると職員自身の健康を損ない、持続可能な働き方を続けることが困難になる。。

### 3年間(H29~R01) モデル校としての業務改善の取組

大きな成果

#### ①樟葉小学校独自の業務改善

##### ☆「かえるボード」を設置

- \*出勤時に自ら退勤時間を設定
- \*計画的に業務をすることを推奨



##### ☆組織・業務の合理化・効率化

- \*組織改編やペーパーレス会議の実施等

##### ☆「連絡掲示板」を設置

- \*PC起動時にデスクトップに掲示板を表示
- \*伝達事項を電子化する中で、職員朝礼等を短縮

#### ②業務アシスタントの活用

##### ☆業務アシスタントに業務を依頼

「必ずしも教師が担う必要のない業務」  
「負担軽減が可能な業務」

- \*教材作成(学習カード、教具、校内掲示板等)
- \*階段に地図記号等を学ぶ掲示物の作成、掲示
- \*印刷(授業用プリント、修学旅行のプリント等)
- \*PCへのデータ入力      \*配付物の仕分け
- \*賞状への名前の記入      \*電話対応、来客対応
- \*学校行事の準備(卒・入学式用の壁面飾り)  
(新1年生の教室掲示用壁面飾り)
- \*鍵の整理      \*倉庫の整理整頓
- \*食物アレルギー対応献立表のアレルゲンチェック 等



#### ◇「働き方」に対する意識の変化により

- \*時間外勤務時間が減少(平均 H30/40h→R01/35h)
- ストレッチ分析→「働きがい」「仕事や生活の満足度」等がUP↑
- \*子どもと向き合う時間が増加(時間が生み出す余裕)
- 学校教育自己診断結果のポイントがUP↑
- 「先生は困った時に相談にのってくれる」
- 「落ち着いた中で学習している」

見えてきた  
課題

#### ◆新学習指導要領の完全実施による業務の増加

- \*授業研究・教材研究の再構築
- \*新しい教育課題への対応(外国語、プログラミング教育等)
- ◆職員の異動による「働き方」の共通理解、共通認識

### 業務改善の継続・充実・推進に向けて

#### 『Hirakata 業務改善パイロット校』をめざします！

- 【意識改革】 専門コンサルタントからのアドバイスを活かし、職員一人一人の業務改善や働き方に対する意識を高めます。
- 【計画性】 見通しをもって仕事に取り組み、業務アシスタントの効果的な活用を図ります。
- 【情報発信】 取組内容を市内学校園に資料提供、成果報告をします。

◇資質や指導力の向上に向けた環境整備をすることで、  
時間や心に余裕が生まれ、子どもと向き合う時間や  
精神的余裕がさらに生まれます。

毎日元気に子どもたちの前に立って、

未来につながる力を育む教育をめざします。

すべては子どもたちのために! 樟葉小学校を業務改善推進校に!!

## 学校現場における業務改善推進校の指定申請

交北小学校 令和2年度 重点目標 「自ら考え、学びあえる子ども」  
～ 認め合い、支え合い、思いやりの心を持って、あきらめず学びあえる子どもの育成 ～

**UP**  
子どもの達成感  
教職員の授業力

**DOWN**  
教職員の負担感  
時間外勤務

交北小学校の働き方に関する改善

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①時間外勤務状況	522時間	435時間	350時間（目標値）
②行事の精選	運動会の日曜開催		土曜開催へ（競技の見直し）
③地域行事への参加	分担制		自由参加（児童の応援）
④勤務時間内の電話対応（保護者対応）	時間制約なし		8:00～18:00
⑤業務アシスタントの活用	無	有	有
⑥職員室UD	クリーンデスク・ロッカー・ペーパーレス会議・ポップアップ職朝		

市より

業務アシスタント  
配置  
15時間/週  
(年間30週)  
取組のフォローア  
ップ

### 【ミッション】

- ①業務アシスタントの活用  
教材準備・印刷、配布業務・宿題等の採点  
電話対応（取次ぎ、連絡のみ）・整理整頓  
来室児童への支援・教材づくりの応援
- ②学力向上のための授業研究・研修
  - ・一部教科担任制の導入（5・6年）  
国語・算数・理科・社会・図工・音楽  
体育・英語・書写などを教科担任で実施  
（担任の授業研究の時間を短縮）
  - ・中学校教員による英語科授業の充実と軽減

取組み内容の結果  
資料の提供をいた  
します

### 交北小学校がめざす「働き方像」

教職員の意識改革 → 残業せずに子どもたちへの指導に専念  
学力向上、主体的・対話的で深い学びのための授業研究・教材作成に専念  
業務内容 → 授業準備（教材作成・印刷）・補充学習・宿題等の採点  
時間外勤務等の改善 → 子どもたちへの指導時間の増大・教材開発  
学力向上のための授業研究・研修時間の増大

# 「チーム菅原東」で働き方改革！

## ユニバーサルデザインにあふれた学校

子どもたちは過ごしやすく、教職員は働きやすい学校を目指して



# 負担を職場支援で働きがいに！

# 道

ストレスチェックの結果から…

伊加賀小～働き方改革への

心理的な仕事の負担は量・質とも  
全国平均を上回る結果が…

量

質

心理的な仕事の負担

先生たちは耐えられるのか…



しかも、自覚的な身体的負担度はなんと全国平均の1.4倍！

だけど

## 職場支援

ONE TEAM

同僚性の高さ

業務アシスタントさんによる支援

職場環境による  
ストレスが小さい

なので

活気

全国平均  
の1.2倍

仕事や生活の  
満足度UP！

働きがい

全国平均  
の1.4倍

健康リスクを下げる

燃え尽きさせないために…



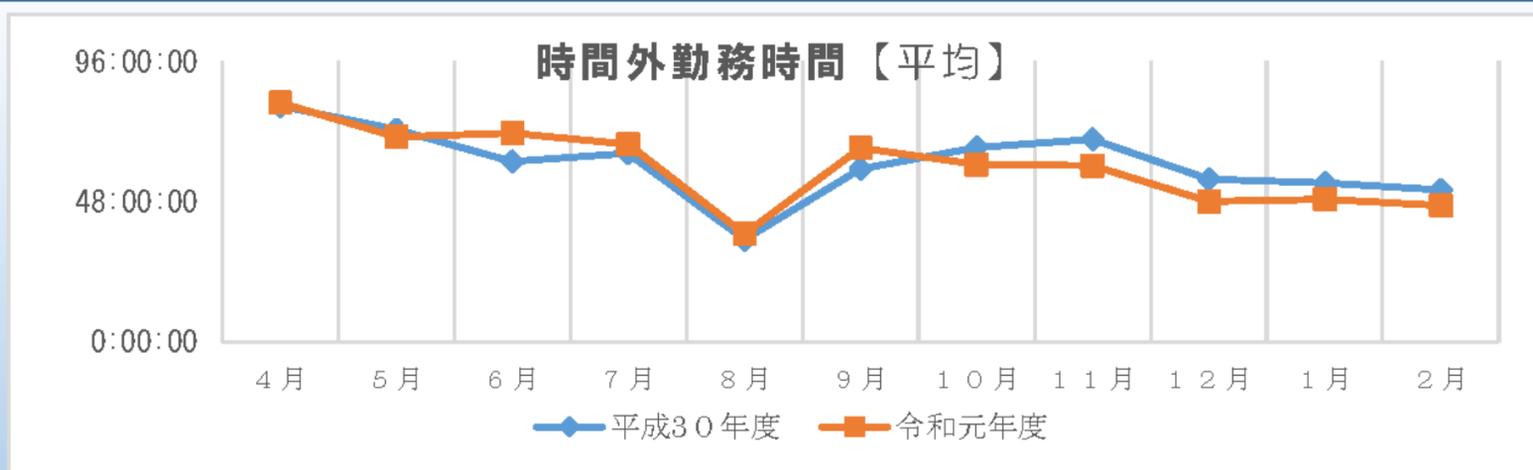
# 学校現場における「業務改善」の取組推進について

枚方市立東香里中学校

## 1 業務改善に係るこれまでの主な取組と成果

- ◇教職員の意識改革：教職員各自による時間外勤務状況の把握・業務の優先順位・効率的な時間活用
  - 時間外勤務が月80時間以上の教職員に対する「TODOリスト」の活用
- ◇業務アシスタントの活用：学習・保護者配付プリントの印刷及び授業準備の補助等
- ◇事務職員の学校経営への積極的な参画：効率的な事務の推進・整理整頓等
- ◇職員会議のペーパーレス化・職員朝礼の効率化
  - 「ペーパーレス化」は4月1日から実施・職員朝礼のポップアップ画面は順次設定中
- ◇SC・SSWや外部機関との緊密な連携
- ◇勤務時間外の電話対応の縮減

## 2 時間外勤務の客観的データと今後の課題



- 「2年後に2割（12時間）削減」の目標→前年度の10月以降は平均6時間40分の削減
- 前年度担任の時間外勤務→過去3ヶ月では「全体平均」より概ね15時間程度多い状況
- 管理職の時間外勤務→年間を通して「全体平均」より概ね27時間程度上回っている状況

本年度の方向性

## 3 「業務改善推進委員会」を核とした組織的計画的な取組の展開

- ◇業務改善推進委員会の設置：校長・教頭・事務・主担＋各学年1名
  - 月1回開催。具体的な取組内容の検討・進捗確認・検証。（※別紙「第2回次第」参照）
- 【主な取組内容】
  - 焦点化した業務アシスタントの活用：昨年度のデータから「担任業務のサポート」優先
  - 各教科の単元計画・指導案・教材プリントの保管・活用：Pドライブの「教科毎専用フォルダ」活用
  - 各種会議の効率化：案件毎の設定時間・プロジェクターの活用・ペーパーレス化の拡張等
  - 職務の効率化：事務作業のマニュアル化・職員室の整理整頓・ファイリング等
  - 月毎の業務改善テーマ設定・週毎の時間外勤務状況の共有
  - 業務改善目安箱の設置

目標

- ◇教員の授業力・指導力の向上を図る。
- ◇教職員のモチベーション向上と健康管理に努める。
- ◇業務の質の維持・向上をめざし、平準化（組織的な対応）・効率化を図る。

- 時間外勤務の縮減：本年度末に2割縮減（平成30年度基準）
  - 教職員一人一人が1日25分（時間外勤務80時間以上の教職員は1日50分）縮減



◇目的◇「教職員のやる気溢れるチーム蹺跼中学校・ONE TEAM蹺跼」

- ☆持続可能な学校運営と教育力の向上→授業づくりに専念できる環境
- ☆業務の適正化と質的転換→必要、不必要の仕分け、優先順位の明確化
- ☆教職員の意識改革→社会人としての意識と≡家庭人・地域人としての意識

2年目、教職員と共にさらに進めていきたい。ONE TEAM蹺跼で前進。

学校教育目標：自ら学びに向かい、他者とつながり、ともに高めあい、自立を目指す生徒の育成

生徒に何をどのように学ばせ、身につけさせ、何ができるようにさせたいのか

- ・自分で考え、自分から取り組む
- ・自分で計画を立てて勉強する
- ・課題に関心を持ち、自分で考え、他者の意見を聞き、自分の考えと照らし合わせ学ぶ。
- ・思いやりや感謝の気持ちを持ち、何事にも積極的に取り組み、互いに認め、支えあう。

生徒育成の為に目標を実施するために何が必要か

- 配慮を必要とする生徒への指導
- 教育課程の編成
- 教育課程の実施

- すべての生徒が学びを投げ出さない学習指導
- すべての生徒が周りを思いやることのできる生徒指導
- すべての生徒に居場所のある集団作り
- すべての生徒が将来の夢を語れる進路指導
- 健康安全教育の充実と危機管理の徹底
- 家庭との連携
- 地域との連携の充実

- その為に行う授業・行事・学級学年活動・部活動の他に
- 学担会議○学力向上会議○教科代表者会議○教科部会
  - 職員会議○分掌会議○各委員会会議○学年会議
  - 小学校、関係諸機関、高校との連携

子どもの実態

- ・何事にも自分で考え、取り組んでいる
- ・自分で計画を立てて勉強している
- ・みんなで協力するのは楽しい
- ・話合う活動を通じ自分の考えを深めている

しかし、まだ自己の肯定感は低い→  
もっと先生にそばにいて欲しい

教職員の願い

- ◇よりよい授業を目指し、教材研究をする。
- ◇生徒一人ひとりに寄り添い、細やかに生徒の状況を把握する。
- ◇保護者との連携を密にする
- ◇教職員としてのスキルアップの為に研修受講

教職員の实態

- ◆授業がない時間は授業等プリント類の印刷
  - ◆学級、分掌、部活等関係書類の作成印刷
  - ◆配慮のいる生徒への付き添いや対応
  - ◆課題のある授業への応援
  - ◆課題のある生徒の生徒指導や保護者対応
- 結果、必要な生徒のそばに行けない。時間がない。帰りが遅くなる。不平を感じる。家庭訪問が憂鬱に感じる

☆業務改善への取り組みの進捗状況○△×

- △①業務の精査、分掌の見直し
- ②事務連携
- ③業務アシスタントによる業務量の減少(意識が少しずつ変化)
- △④勤務時間に対する意識(△教職員自身、×生徒、××保護者、△地域)
- ⑤電話対応時間の周知→今年度、更に変更  
平日の電話対応時間(課業日8:00~最終下校から30分  
長期休業中8:30~17:00、休日なし)
- △⑥総業務量の適正化、平準化により、授業改善への時間に活用。授業が上手になると先生のやる気が沸く
- △⑦部活動の活動時間、日数について  
本校部活動方針に則る・・・が、やる気満々顧問や保護者の意識を変えることは可能か?(課題!)

- ・時間の余裕は心の余裕
- ・時間への意識は仕事と私生活のけじめ
- ・生活のメリハリは生徒の前で元気な先生

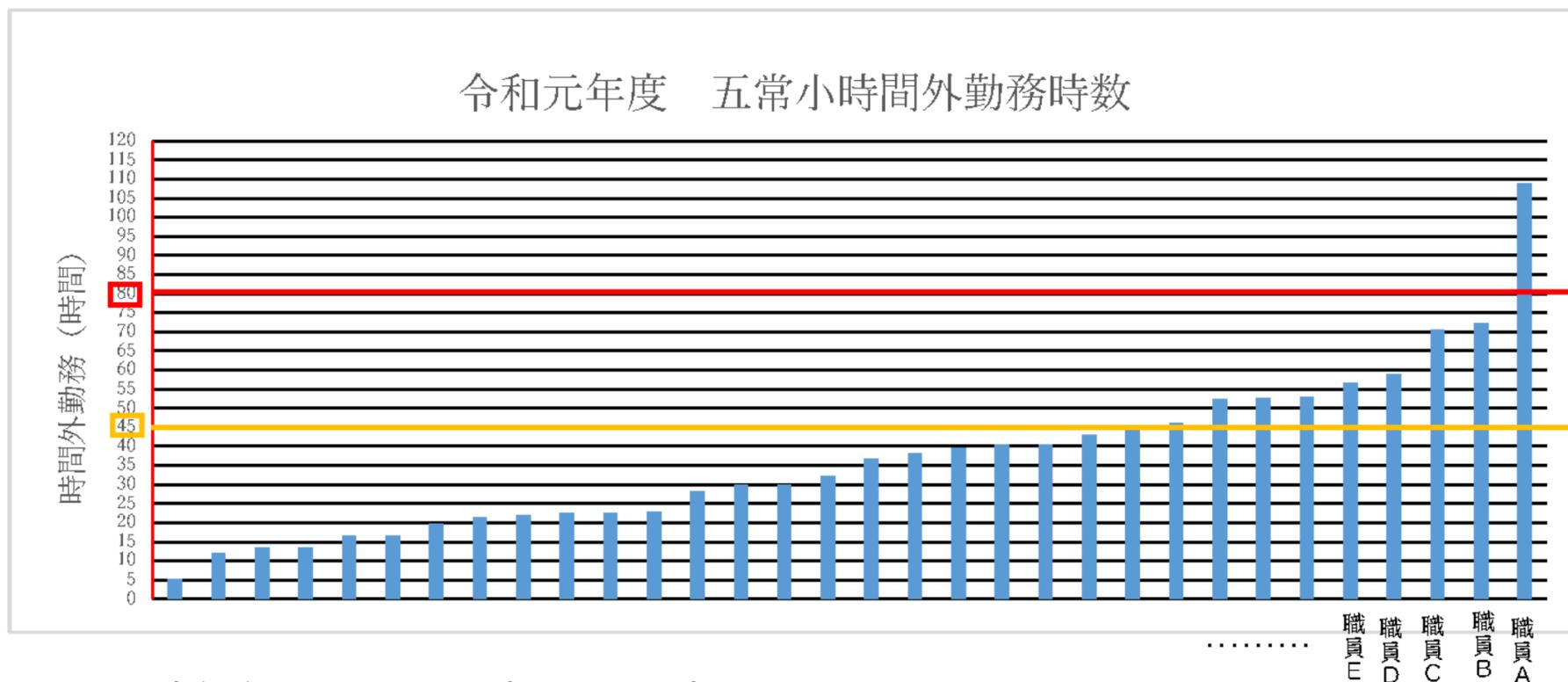
■教職員の「業務改善」が必要であることの意識づけは進みました。職場環境の変化は前年踏襲による業務の増加を防いでいます。職場環境改善は一気に進みました。(でも、限界あり)「教師の仕事はやりがいのある仕事である」と、感じる先生の意識は確実に職場を明るい雰囲気にしていきます。

今年のテーマは「ONE TEAM蹺跼」。さらなる職場環境づくりからの授業改善へ進めることは生徒のプラスと信じて実践していきます。



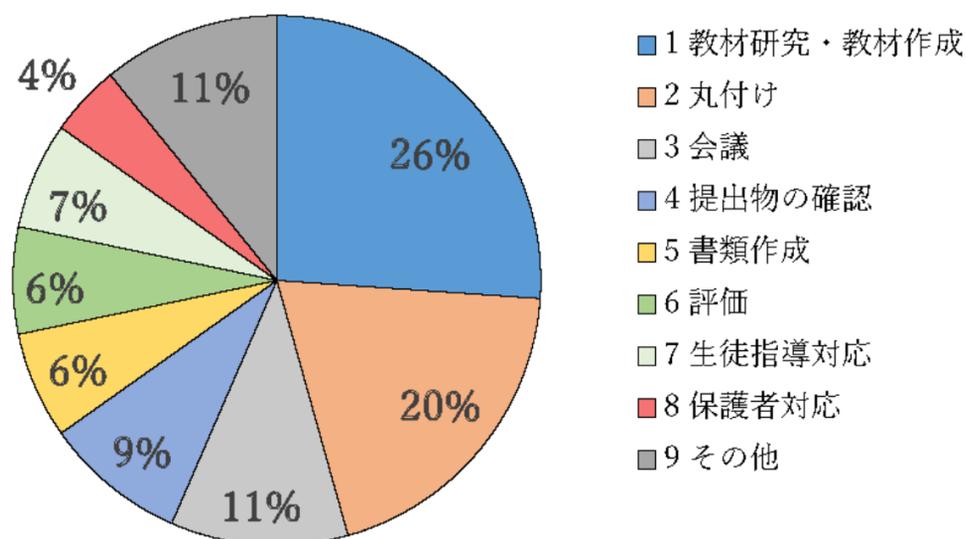
# 令和2年度 五常小 業務改善計画

## 1. 五常小の実態（令和元年度）



## 2. 時間外勤務になる要因（2020.2月）

職員アンケート「一体、何に時間がかかっているのでしょうか？」



### (結果)

○教材研究・教材作成や丸付け、児童の提出物の確認、評価など、授業に関係するものが半数以上を占めている。

⇒ **業務アシスタントの活用**

(活用例)

- ・教材の印刷・配付物の分別
- ・提出物の確認・採点 など

○会議に時間がかかる。

⇒ROI 年度は、PC 上での会議への変更により、H31 と比較し、3 時間 21 分短縮されている。

今後も継続して取り組む。

## ○五常小がめざす「改革像」

- ・印刷機に使っていた時間を、**教材研究に使う。**
- ・ノートと向き合うのではなく、**子どもと向き合う時間を増やす。**
- ・職員室にいる時間よりも、**プライベートで使う時間を増やす。**



職員も「よく学び 思いやりある たくましい五常小」をめざす

## 令和2年度の業務改善に向けて

～限りある“時間”・限りある“資源＝人材”のなかで～



### 働き方に関する課題

「走り杉?!」「焦り杉?!」「働き杉?!」

本校の校庭には、創立時に植樹された3本の杉「三本杉」がある。現在は大きな杉の横に若い杉が2本、2代目となる杉である。大きな杉に追いつこうという姿にも見え、本校職員の現状と重なるところがある。10年未満の教員は7割近い。まっすぐに懸命に伸びようとする職員集団。昨年度、校内で行った研修は30本を超える。成長のためには、労力を惜しまない。とはいえ事務的な仕事にも手を抜かない。かといって、残業もしないようという限られた時間を大切にしようとして常に全力で走り続けているようにも映る。けれどいつか「パキッ」と折れないかと心配になる。折れてしまえば元も子もない。もちろん代わりはいない。しなやかでしっかりと根をはる大きな杉となるべく職員全体の意識改革や限られた時間で教員の専門性を最大限に活かす取組やサポート体制が急務となっている。

市より

業務アシスタント配置  
15時間/週（年間30週）  
専門コンサルタントによる助言、ICTのより良い利用方法提案、  
教職員のメンターとして取組のフォローアップ

### 【ミッション】

学校が抱える課題は年々複雑化・困難化している…

学校として量より質（クオリティ）

優先順位（プライオリティ）を意識することで

教職員の専門性（スペシャリティ）を

最大限に発揮する取組を進める。

- 意識改革・勤務時間管理
- 業務の明確化・適正化
- 学校の組織運営体制の整備

### 【取組内容の報告】

市内小学校の環境において可能となるような取組や「やってみよう」と取組みたくなるような内容の報告をめざします。

### 【本校がめざす「働き方像」】

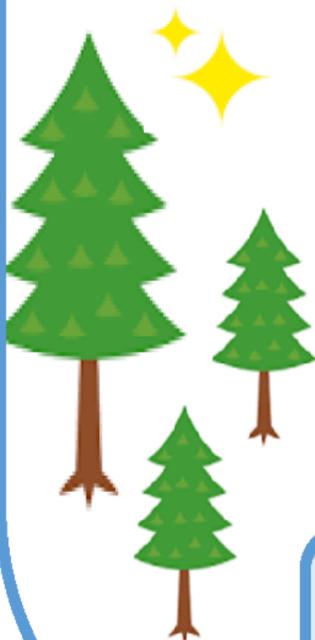
心豊かで 持続可能な 学校をめざします

- ・ 学校長、教頭を含めた全教職員が心身不調に陥らないような業務の質的転換
- ・ 年々増加するミドルリーダーの業務負担の軽減が若手育成につなげるチャンス
- ・ 児童と向き合う時間の確保により、不登校、問題行動等の減少、未然防止
- ・ 各教職員が働き方のPDCAサイクルを実施し、今後の教職人生を豊かにする。



児童対象 学校教育自己診断結果  
「学校が楽しい 90%以上」をめざします。（昨年度81%）

教職員対象 学校教育自己診断結果  
「わかりやすい授業づくり 90%以上」をめざします。（昨年度83%）



## 業務改善推進校に向けて

### 長尾西中学校の働き方に関する課題

縦持ち授業を行う中で、時間割の中に教科会を設定し時間を確保して学力向上の取組を行っている。分掌部会も時間割の中に入れ、会議時間の確保している。職員会議においても、発言目安時間の設定など細部にわたって工夫し、時間内に会議を終わらせる努力をしている。しかし、専門的な教材の作成や印刷、製本といった業務は日常的にあり、授業の準備をしながら行っている。また、テスト前には考査袋の準備や割り当て表の作成など事務量も多い。校務分掌においても事務量が多い。これらが教員の超過勤務の一要因となっていることに加え、クラブ活動の負担も大きく、超過勤務の一番の要因である。

教員にとって優先順位が一番高い仕事は授業と生徒対応である。授業や生徒対応を丁寧に行うためには、時間的余裕を確保しなければならない。時間に追われる中での対応では生徒の指導や保護者との密な連携が疎かになる恐れがある。

教職員の働き方として、時間外勤務が増え、心身ともに疲労する教職員を増加させないためにも働き方改革を推進し、質の高い授業と生徒と向き合う時間の確保に努めたい。

## 長尾西中 Work-style Innovation の推進

### 学校として

- ・ 働き方改革の意識づけ
- ・ 仕事の可視化
- ・ 仕事の優先順位の設定
- ・ メリハリをつける職場の雰囲気醸成
- ・ 勤務時間終了時間（17:00）を意識した取組の検討。
- ・ 採点は教員が行うことで、生徒理解につなげる。

### アシスタントへの依頼【現時点の具体策】

- ・ アンケートなど作成とデータ処理。
  - ・ プリントや教材などの印刷物の印刷。
  - ・ 物品などの整理整頓。
  - ・ 実習準備の補助。
  - ・ 採点結果の入力等
- ※適宜、教職員の意見を聞きながら、一番必要な部分に対応していく。

### 今後期待される成果

- ・ 教職員の気持ちの余裕を生み出すことで、生徒と向き合える時間が増える。
- ・ 生徒の対応を丁寧に行うことで、保護者との信頼関係を築く。
- ・ 質の高い授業や学力向上に向けた取り組む時間を生み出すことができる。
- ・ 教職員の健康増進により仕事への意欲を高めることができる。



**先生も生徒もやる気 UP!**

学校における働き方改革（これまでの教職員の働き方の見直し）は、子どもたちに対して、効果的で充実した教育活動をおこなうため取り組むものです。

大切なことは、時間は限られているということ。その中で、

1、授業力を磨くこと。

2、日々の生活の質・教職人生を豊かにすること。

自らの人間性や創造性を高めましょう。